

令和3年度 鶴見地区 幼保小交流事業活動報告

鶴見地区 実行委員会



鶴見地区の交流事業の特色

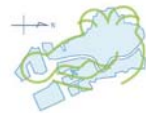
- ▶ 鶴見区内19ブロック間で交流を実施
ブロックごとの職員の交流・研修の実施
- ▶ 園長、校長交流会では中学校の校長も参加し
区全体で一体となった保育・教育機関の連携を図る。
- ▶ 幼保小の交流は30年以上にわたる歴史がある



鶴見地区 実行委員会

- ▶ * 小学校2、幼稚園6、保育園（公立2、私立4）

- ・ 令和2年度の振り返りと今年度の方針の策定
- ・ 講演会の実施の可否について
- ・ 各ブロックの活動内容・方法について



⇒ 令和2年度は直接的な子ども、教員の交流活動が実施できず。
令和3年度も大きく状況が変わらないことが予想され、
各施設における感染症対策を優先しつつ、ブロックごとに活動方法を決定

令和3年度の交流活動

- ▶ 新型コロナウイルスの流行の状況に合わせたブロックごとの活動を行う

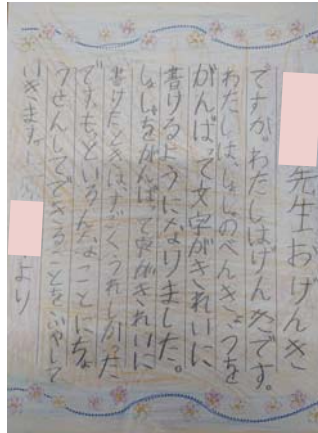
- ・ チューリップの球根・土・を園に贈呈
- ・ 小学校から園へ、絵本や折り紙の寄贈
- ・ 1年生から幼保の教員への手紙による交流
- ・ 1年生と幼保の子どもとの交流を目的とした、コマ、竹馬、楽器、カプラなどの備品の購入。



国語の授業での手紙による交流の例

国語の授業で1年生が卒園した母園の先生へ書いた手紙による交流。

コロナ禍で直接の人的交流の計画が難しい今年度は、手紙による交流が多くの学校・園の間で見られた。



就学の期待が膨らむ体験

【ブロック活動を経て生まれた幼稚園の子どもの様子】

ひな祭りの制作遊びから



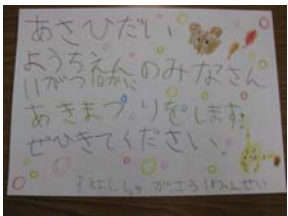
幼稚園での自由遊びの場面では、**学校への進級を楽しみに待つ子ども**の心情が、遊びに表現されている。



学校ごっこに発展。教室の授業風景や、校庭の鉄棒を紙で再現して楽しむ。



【推進地区】末吉小学校・認定こども園 あさひ台幼稚園、末吉にこここ保育園の交流



感染状況の落ち着いていた10月、11月に交流活動を実施！



生活科で児童が親しんだドングリを用いた「あきまつり」企画を盛り込んだ交流活動



【推進地区】末吉小学校、末吉にこここ保育園、 認定こども園あさひ台幼稚園の交流活動について

令和3年度に豊かな交流が実施できた要因は？

- ▶ 4月当初より、接続期研修会、小学校見学、スタートカリキュラム勉強会（リモート）等に参加。
- ▶ 感染の少なかった10月、11月に子ども同士の交流を実施。
- ▶ 12月には、1年生担任の教諭が幼稚園1日体験を行う。（園児・保育士との交流）

⇒学校長を中心に、保育園、子ども園の教職員と密に連絡を取り合い、準備を進め**交流が可能な時期を見極めて実施したこと。**

各ブロックより 成果と課題

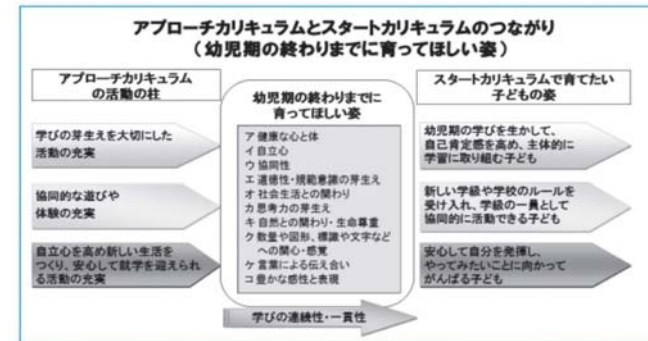
《成果》

- ・ 人的な直接の交流が少なく、各校・園での感染症予防を徹底できた。
- ・ ブロック活動費は、それぞれの学校、園が使い道を考えて実態に即した活動のために有益な予算の執行することができた。

《課題》

- ・ 担当者が集まって話す機会がなく、主に電話で代表者同士が話す限定的な範囲での交流に留まった。
- ・ 1月以降に感染が拡大したため、予定していた交流活動が実施できないケースが多かった。
- ・ 直接的な交流が少なく、子ども・教員の交流事業における達成感が低くなってしまった。

次年度に向けて



これまでの幼保小の交流を通して蓄積されてきた知見を、コロナ禍を踏まえた**現在の実態に即した活動内容へアップデートすることが必要。**